



投資家のみなさまへ
第61期 中間報告書
平成22年5月1日～平成22年10月31日

株式会社 **ナデックス**

証券コード：7435

先端技術で未来を拓く 接合のナ・デックス

当社は、産業機器や電子部品を中心とする商社であると同時に、溶接制御機器などのメーカー機能も併せ持っているユニークな企業です。商社とメーカー、業態の異なる2つのビジネスの相乗効果と、蓄積された豊富なノウハウの提供により高い顧客満足を実現しています。

SPOT LASER ARK

スポット溶接



特長

省エネ・省資源を実現する
ナ・デックスのスポット溶接機器

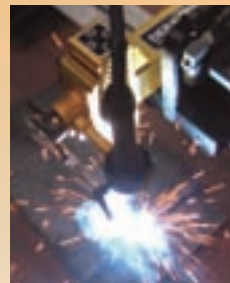
レーザー溶接



特長

開発・生産技術を
強力にサポートする
ナ・デックスのレーザー溶接システム

アーク溶接



特長

世界最先端の制御技術で
高次元の溶接品質を実現



好調な海外事業、 優れた新製品など好材料を活かしつつ、 新分野での拡販に努めてまいります。

投資家のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より当社事業へのご理解とともに格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。当社第61期第2四半期累計期間(平成22年5月1日から平成22年10月31日まで)の終了につき、第61期中間報告書をお届けいたします。ご一読いただければ幸いです。

投資家のみなさまにおかれましては、引続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

桑原敏郎

当第2四半期累計期間の業績について お聞かせください。

当社の主要顧客である自動車関連業界では、経済対策などにより生産が増加しており、前年に比べ大幅に回復し始めているものの、新たな設備投資の実施については当初の期待ほど回復しておらず、当社にとって厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、商事部門では、エンジニアリング要素を盛込んだ提案型の営業を実施することで付加価値を高める営業活動を行ってまいりました。

また、自動車関連業界への依存体質を見直し、前期から非自動車分野への販路拡大に努め、徐々にではありますが成果が出始め当社の業績に寄与し始めており、非自動

車分野への販路拡大の流れができてきたと手応えを感じております。

その結果、連結の売上高は85億9千7百万円と当初の目標を下回りましたが、営業利益は2億円と当初の目標である1億3千万円を上回ることができました。しかしながら、この第2四半期累計期間の為替の変動は当社の予想を超えるものであり、9千1百万円の為替差損を計上することとなり、四半期純利益は9千万円と当初の目標と同額となりました。

非自動車分野での展開は どのようになっているでしょうか。

アミューズメント関連分野につきましては、順調にご注文をいただいております。前期に引続き堅調に推移してお

ります。来期以降も継続して受注できるように営業活動に注力し、非自動車分野の1つの「柱」として育てていきたいと考えております。

また、「厚物」と呼ばれる造船等の重厚長大産業につきましては、これまで培ってまいりました「接合」のノウハウを活かし、中部地区を重点に営業活動を行ってまいりましたが、西日本にも大きなマーケットが存在しており、今後はそちらにも対応できる体制を整えました。これにより、効果的な営業活動が行えるようになり、当社で開発した多層盛溶接ロボットシステムに高い関心を寄せていただくなど成果が期待されますが、この業界では成果が結実するまでに1年を超えるケースも珍しくなく、業績に反映されるのは来期以降になると考えております。

海外事業の活動状況について お聞かせください。

中国市場における製造・販売拠点として、上海に子会社を設立して7年余りが経過しており、その間、企業体質の改善に努めてまいりましたが、ようやくその成果が表れ始め、昨今の中国の好景気の影響もあり、設立以来かつてないほどの繁忙を極めております。特に、産業機械を制御する装置の需要が高く、同社は来期以降も受注が拡大し、フル稼働の状態が続く状況が想定され、これを期に生産体制の効率化を推進し、より高い競争力を持った企業へと体質強化を進めてまいります。

タイでは、税制面での優遇措置などにより、日本の自動車メーカーも積極的な設備投資を行っております。2年前に設立したタイの子会社もこの状況をチャンスと捉え、自動車関連業界はもちろんのこと、非自動車分野においても積極的な営業展開を図っております。

新製品の開発状況について お聞かせください。

造船や鉄鋼、橋梁、原子力プラントなどの重厚長大産業向けの製品として、**多層盛溶接ロボットシステム「DERA-ROBO」**(p4トピックス参照)を開発いたしました。重厚長大産業で使用されている厚板には、1回では溶接できない部分を複数回に分けて溶接を行う「多層盛溶接」という手法が用いられています。この溶接を人の手で行いますと、溶接品質を均一に保つことが非常に難しく、また作業時間も長く負担が大きいという問題がありました。このたび開発した「DERA-ROBO」は、人に代わってロボットが溶接作業を行うことで、溶接品質を一定に保ち、作業者の負担も大幅に軽減されることが期待できます。

また、新型抵抗溶接制御装置「IWC6」の開発も見込みがあった状況であります。この「IWC6」は、抵抗溶接の品質を飛躍的に高めることができ、自動車生産ラインなどにおいて、工数の省略化や省力化などの製造コストの削減が期待できます。

投資家のみなさまへの メッセージをお願いします。

少しでも多くの投資家のみなさまに当社の存在を知っていただき、市場における認知度の向上および適切な株価形成のため、9月に大手証券会社主催の会社説明会に参加いたしました。当社株式に対する市場の評価は、未だ満足できるものではなく、当社を応援していただいております。

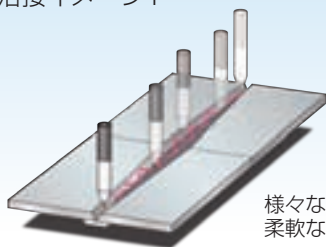
まず投資家のみなさまには大変申し訳なく思っております。今後も会社説明会に参加するなど投資家のみなさまと直接対話できる場を設け、株式市場での評価を高める取組みに注力してまいります。

投資家のみなさまにおかれましては、今後とも当社事業へのご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

T O P I C S



溶接イメージ1



様々な隙間を
柔軟な動きで溶接

多層盛溶接ロボットシステム「DERA-ROBO」

これまで人の手でしか作業ができなかった場所でも、ロボット作業化することで、メリットが得られる溶接ロボットです。新事業領域である造船や鉄鋼、橋梁、原子力プラント向けに積極的に販売します。

品質が一定。

作業者の負担減

溶接イメージ2



一回では溶接できない部分を、
複数回に分けて溶接



連結経営成績の概要

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかながら景気回復が続いており、企業収益は売上高が持直すなど改善の動きが見られますが、急激な円高や依然として厳しい雇用環境など、先行き不透明な状況が続いております。

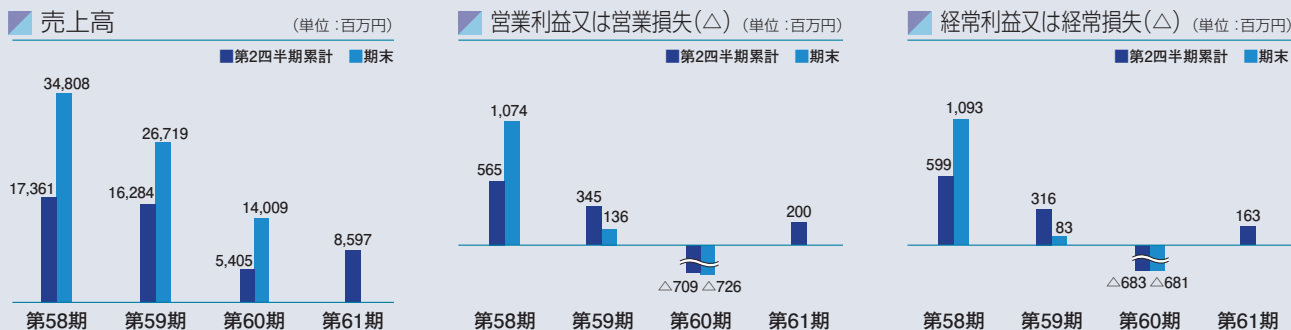
このような経済環境のもとで、当社グループの主要得意先である自動車関連企業の設備投資は、維持・更新投資を再開させるなどの動きが見られ、提案性の高いエンジニアリング営業の強化や新商品・新規市場の開拓により、電気機器関連企業向けの電子制御機器・部品の売上とあわせて回復し始めておりますが、エコカー補助金の終了に伴い生産に一服感があるなど、新規の設備投資については依然として厳しい状況が続いております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は85億9千7百万円と前年同四半期に比

べ31億9千1百万円(59.0%)の増収となりました。営業利益は、付加価値の高いエンジニアリング営業や自社製品であるウエルドシステムの売上の増加に伴う利益率の向上および経費削減などにより、2億円と前年同四半期に比べ9億9百万円(前年同四半期は7億9百万円の営業損失)、経常利益は、為替差損9千1百万円の計上などがあったものの、1億6千3百万円と前年同四半期に比べ8億4千7百万円(前年同四半期は6億8千3百万円の経常損失)、四半期純利益は9千万円と前年同四半期に比べ10億1千3百万円(前年同四半期は9億2千2百万円の四半期純損失)とそれぞれ増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

連結財務ハイライト



日本

日本につきましては、生産の回復に伴い電子制御機器・部品の売上増加および自社製品を含めた設備案件の売上増加に伴い、売上高は81億7千7百万円、営業利益は1億5千5百万円となりました。

中国

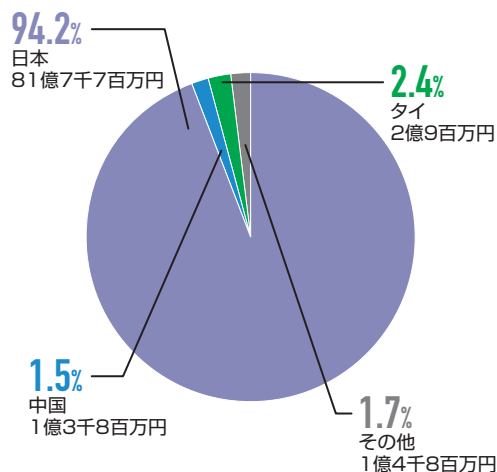
中国につきましては、大型案件が納入できたことなどに伴い、売上高は1億3千8百万円、営業利益は1千5百万円となりました。

タイ

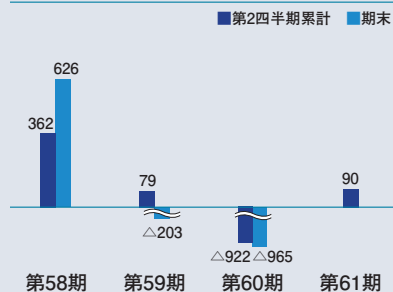
タイにつきましては、金融危機以後、凍結・延期されていた案件が納入できたことなどに伴い、売上高は2億9百万円、営業利益は2千2百万円となりました。

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

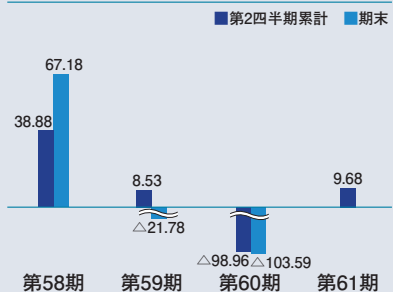
セグメント別売上高構成比



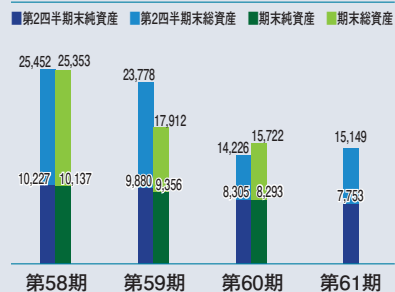
四半期純利益又は純損失(△) (単位:百万円)



1株当たり四半期純利益又は純損失(△) (単位:円)



純資産/総資産 (単位:百万円)



四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

区 分	当第2四半期 (平成22年10月31日現在)	前 期 (平成22年4月30日現在)
資産の部		
流動資産	10,159	10,153
固定資産	4,990	5,568
有形固定資産	2,996	3,001
無形固定資産	300	298
投資その他の資産	1,693	2,268
資産合計	15,149	15,722
負債の部		
流動負債	7,027	7,131
固定負債	367	297
負債合計	7,395	7,429
純資産の部		
株主資本	7,900	8,300
資本金	1,028	1,028
資本剰余金	751	751
利益剰余金	6,276	6,676
自己株式	△155	△155
評価・換算差額等	△152	△10
その他有価証券評価差額金	53	123
為替換算調整勘定	△206	△133
少数株主持分	5	3
純資産合計	7,753	8,293
負債純資産合計	15,149	15,722

四半期連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

区 分	当第2四半期 (自平成22年 5月 1日 至平成22年10月31日)	前第2四半期 (自平成21年 5月 1日 至平成21年10月31日)
売上高	8,597	5,405
売上原価	7,385	5,007
売上総利益	1,211	398
販売費及び一般管理費	1,011	1,107
営業利益又は営業損失(△)	200	△709
営業外収益	73	85
営業外費用	110	59
経常利益又は経常損失(△)	163	△683
特別利益	14	2
特別損失	18	634
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	159	△1,315
法人税、住民税及び事業税	4	4
法人税等調整額	63	△394
法人税等合計	67	△389
少数株主損益調整前四半期純利益	92	—
少数株主利益又は少数株主損失(△)	2	△2
四半期純利益又は四半期純損失(△)	90	△922

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)

区 分	当第2四半期 (自平成22年 5月 1 日 至平成22年10月31日)	前第2四半期 (自平成21年 5月 1 日 至平成21年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△505	△319
投資活動によるキャッシュ・フロー	△290	△60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△393	130
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△0
現金及び現金同等物の増減額（減少：△）	△1,196	△249
現金及び現金同等物の期首残高	3,280	3,049
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,084	2,843

株主還元方針に関する考え方

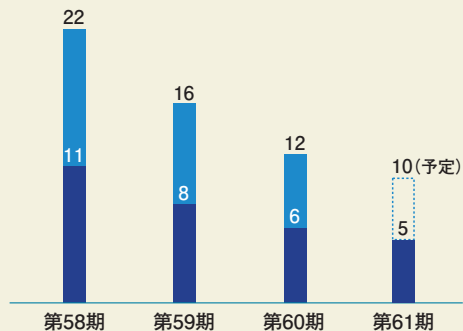
当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させることにあると考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記基本方針をふまえて、当事業年度の業績を勘案して、年間としては1株につき10円(うち中間配当5円)の配当とする予定であります。

配当金の推移

■ 中間配当金 ■ 年間配当金 (単位:円)



■ 会社概要

商号	株式会社ナ・デックス (英文名/NADEX CO.,LTD.)
本店所在地	名古屋市中区古渡町9番27号 TEL (052) 323-2211
設立	昭和25年10月
資本金	1,028,078千円
上場金融商品取引所	大阪証券取引所JASDAQ (スタンダード) (証券コード: 7435)
従業員数	313名 (連結)、160名 (単体)

■ 役員

代表取締役社長	桑原敏郎
代表取締役専務	坂井有
常務取締役	福島國彦
取締役	太田善教
常任監査役(常勤)	武田吉保
監査役	奥田幸男
監査役	矢崎信也
監査役	加藤正樹

(注) 監査役奥田幸男、矢崎信也および加藤正樹は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 関係会社の状況

会社名	主要な事業内容
連結子会社	
株式会社ナ・デックスプロダクツ	钣金加工、製缶等および電子制御機器の製造・販売、電子制御部品の販売
株式会社ナデックス企画	賃貸業務および保険代理店業務
那電久寿機器(上海)有限公司	溶接機器、自動車生産ライン等の製造・販売
S.A.TECH CO., LTD.	産業機械の据付工事
持分法適用関連会社	
株式会社フジックス	自動化専用システム等の製造・販売
Weltronic/Technitron, Inc.	Welding Technology Corp.およびGlobal Welding Solutions, LLCの持株会社
Welding Technology Corp.	抵抗溶接制御装置の製造・販売
Medar Canada, Ltd.	抵抗溶接制御装置の販売
Global Welding Solutions, LLC	上海梅達溶接設備有限公司の持株会社
杭州藤久寿机械制造有限公司	精密機械加工部品の製造・販売
上海梅達溶接設備有限公司	抵抗溶接制御装置の製造・販売
持分法を適用しない非連結子会社	
NADEX (THAILAND) CO., LTD.	溶接機器、各種産業用設備の販売、製缶品の製造・販売

拠点



東京支店

さいたま市大宮区宮町1-114-1 ORE大宮ビル8階
TEL (048) 650-7181

大阪支店

大阪市淀川区西中島3-9-12 空研ビル3階
TEL (06) 6305-0525

北九州営業所

北九州市小倉北区鍛冶町2-1-1 小倉鍛冶町ビル6階
TEL (093) 533-6335

技術センター

愛知県北名古屋市徳重御宮前1
TEL (0568) 21-1428

株式の状況

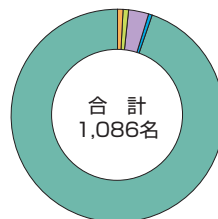
発行可能株式総数	40,125,000株
発行済株式の総数	9,605,800株 (自己株式278,383株を含む)
株主数	1,086名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.00
ピー・イー・フォー・フィデリティ・ロープライス・ストック・ファンド (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	623,000	6.67
古川美智子	400,000	4.28
竹田和平	356,000	3.81
古川佳明	312,000	3.34
ナ・デックス社員持株会	215,000	2.30
株式会社三井住友銀行	152,000	1.62
株式会社三菱東京UFJ銀行	144,000	1.54
尾崎博明	144,000	1.54
株式会社名古屋銀行	120,000	1.28

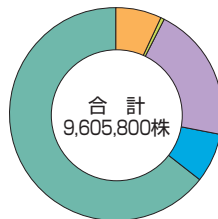
(注) 持株比率は、自己株式(278,383株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

株式分布状況



所有者別の株主数

●金融機関	11名	(1.01%)
●金融商品取引業者	10名	(0.92%)
●その他の法人	32名	(2.94%)
●外国法人等	5名	(0.46%)
●個人・その他	1,028名	(94.65%)



所有者別の株式数

●金融機関	677,000株	(7.04%)
●金融商品取引業者	60,506株	(0.62%)
●その他の法人	1,984,800株	(20.66%)
●外国法人等	696,400株	(7.24%)
●個人・その他	6,187,094株	(64.40%)